



講演は最初、特別講演を土岐善麿文学博士（朝日新聞社の文芸部長）にしていたいただき、実演は府立第六高等女学校の生徒たちにやってもらったのでした。かつてない異色の大講演会で非常な好評を博したものでした。

祝辞をいただいた中の近衛公爵からの祝辞についてはこういういきさつがあつたのです。そのころ国語協会といって国字問題についての研究をする会ができ、その会長に近衛文麿公爵がなつておられたのでした。それで私は近衛公爵からの祝辞もいただこうと思い、私の後援者、元総理大臣、清浦奎吾伯爵（このころは子爵でした）にお願いして近衛公爵にご紹介していただいたのでした。近衛公爵といえば華族の最高の位におられる人で、なかなか私のような者がお会いすることなどできない身分の高い人でした。しかし清浦伯爵ご紹介の名刺を持つて行ったのでお会いしていただくことになり、前もって日時を決めていただいたのでした。お会いして五十分間ぐらい、いろいろお話をして帰ったので



いろいろお話をして帰ったので